

バタフライガーデン“蝶狂人”に集う蝶たち

バタフライガーデン“蝶狂人”（以下、蝶狂人と称す）ならびに極近隣の林縁を含む区域で見られる蝶について、その特徴を分析した。

1、蝶狂人の環境

一級河川の千曲川左岸沿いに標高 800m 前後の台地が広がっている。その千曲川に面した台地の縁は切り立った崖であり、その崖縁付近に蝶狂人（標高 652m）がある。最も近い千曲川河川敷（標高 528m）からの標高差は 124m になる。台地は溜池を利用した稲作が主体、点在する畑ではブロッコリやジャガイモ等が耕作されている。

台地の斜面ならびに崖縁は落葉樹が主体で疎らにマツがあるものの多くはマツクイムシの被害で枯れている。台地ならびに崖縁の落葉樹は定期的に間伐され時には蝶類の発生状況にも影響を及ぼし危惧される場面もある。

台地はオオルリシジミの生息域でもあり住民の蝶に対する関心度も一般以上に高いものと思われる。

2、長野県に生息する蝶との比較

本県は生息数 147 種で全国 1 位になっている。147 種の特定には手元資料の関係で若干の推定が含まれる。蝶狂人において現時点で 77 種が撮影出来ている。

	アゲハチョウ	シロチョウ	シジミチョウ	タテハチョウ	セセリチョウ	合計
市街地	3/ 5 (60)	4/ 7 (57)	7/ 10 (70)	13/ 16 (81)	3/ 3 (100)	30/ 41 (73)
草原	3/ 5 (60)	6/ 10 (60)	7/ 14 (50)	14/ 23 (61)	7/ 12 (58)	37/ 64 (58)
里山	7/ 9 (78)	3/ 6 (50)	13/ 30 (43)	22/ 29 (76)	6/ 7 (86)	51/ 81 (63)
山地	6/ 10 (60)	4/ 6 (67)	15/ 34 (44)	27/ 43 (63)	9/ 13 (69)	61/106 (58)
計	8/ 13 (62)	6/ 10 (60)	20/ 46 (43)	31/ 55 (56)	12/ 19 (63)	77/138 (56)
高山蝶		0/ 3 (0)			0/ 1 (0)	0/ 9 (0)
合計	8/ 13 (62)	6/ 13 (46)	20/ 46 (43)	31/ 55 (56)	12/ 20 (60)	77/147 (52)

蝶狂人/長野県（同比率）

3、考察

①総括

長野県に生息する 147 種のうち 77 種（52%）を撮影、高山蝶を別にすれば生息区分的には広い範囲の蝶が観察できる。90 種ほどは観察可能と推察する。

②環境問題

森林性（里山、山地）シジミチョウ（ゼフィルス）の観察数が少ない。極近隣の散歩道に生息するが発生に不安定さがある。2012 年に観察出来たウラミスジシジミ、メスアカミドリシジミ、オオミドリシジミ、ジョウザンミドリシジミが、若干の環境変化で翌年には全く見られなかった。

蝶狂人@蝶と里山の浪漫紀行